

月報

95号

発行所

青丘文庫

編集・発行★雄 略

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンD青丘ビル2F

TEL (078) 734-5983

FAX (078) 735-0668

在日朝鮮人運動史研究会関西部会
第165回例会
1994年4月10日

「私の在日60年」

(ゲスト) 鄭承博氏

ゲストとして兵庫県淡路島洲本在住の作家・鄭承博さんに来ていただき「私の在日60年」をテーマに話していただいた。鄭さんは、現在新幹社より著作集を刊行中で、すでに、第一巻『小説I裸の捕虜』、第三巻『詩／ある日の海峡』、第4巻『エッセイ／私の出会った人々』が刊行されている。本全集は全六巻の予定である。

鄭さんは、一九二三年慶尚北道の農村に生まれ、九歳のとき日本に渡り、和歌山、大阪で少年時代をおくる。一三歳のときからは栗栖七郎氏宅で書生生活をおくる。四二年三月(一八歳)、日本高等無線学校を中退のち、徴用で福井県、長野県の工事現場で働くことになる。四五年三月、「神戸まで逃げてきて淡路島をみて、こんな緑のきれいな島でなら暮らしていける」と考えて淡路島に渡り、以降現在まで淡路島にお住いである。戦時中に島の奥部で、当時の在日朝鮮人とは「別の」生活をしてきた強制連行されてきた朝鮮人労働者の飯場を目撃したこともあるという。

戦後、洲本でバーを開いてダンディーなマスターとして働く一方で、小説を書くことになる。一九六

一年ごろに川柳の雑誌に投句することから始まるが、一九六五年(41歳)には自伝的小説「富田川」を自身が編集発行人でもある『川柳・阿波路』に二五回にわたって連載する。七一年には『裸の捕虜』を『農民文学』11月号に発表するが、翌七二年にはその作品が農民文学賞を授賞し、また同作品が『文学界』2月号に転載されて第67回の芥川賞候補となった。その当時、マスコミに追いかけて、大変だったそうだ。

研究会では、主に解放前の話を中心に、鄭承博さんの日本での労働体験などを聞かせていただいた。鄭さんは小説もおもしろい話もおもしろいという方で、研究会終了後には、三宮にくりだし更に交流を深めることができた。

少しかがった解放後の話の中で興味深かったのは、一九四八年の阪神教育闘争に関することだ。当時、鄭承博さんは洲本におられたが、兵庫県下の在日朝鮮人が多数県庁のある神戸市に集まったとき、鄭さんも「さあー大変だ!」ということと、トラックにのってかけつけたという。四月二四日の深夜に非常事態宣言が発せられ、翌日から大規模な検挙が始まったが、鄭さんは、翌日大阪にでかける用事があって逮捕を免れたということであった。

研究会ではときどきに在日朝鮮人一世の方にゲストとして来ていただきお話をうかがうが、その話はいずれも記録からは知ることのできないことだ。こういう機会も更に増やしたいと思う。(飛田雄一記)

朝鮮民族運動史研究会第一三五回例会

柳子明の思想と活動

― 解放前を中心に ―

堀内 稔

中国で抗日運動を行った朝鮮人アナキストたちの中で、柳子明は理論家といわれる。彼がどのような経緯でアナキズムを受容し、それをどう行動に結びつけたのかについて報告した。報告は主に柳子明著『私の回憶』（一九八四年中国）によったが、その内容と史実に食い違いがある部分も多く、その詳細な検討は今後の課題である。

水原農林学校卒業後忠州簡易農業学校教員となったが、三・一運動に参加し、危うくなってソウルへ逃げ、そこで秘密結社大韓民国青年外交団で活動。その後上海に渡り臨時政府に関係するが、ここで金翰と会い共産主義に興味を覚える。金翰は後に、共産主義運動で火曜派のメンバーとして活躍する人物である。

しかし民族矛盾を第一と考える彼は、階級矛盾を優先させる共産主義の理論に違和感を感じ、アナキズムに興味をもつようになり、クロボトキンの著作を読んだ。その中でも『ある革命者の回想』は、「私の思想転変に大きな影響を与え、しまいには無政府主義者にさせてしまった」と回想するくらい重大な影響を与えた。

一九二四年夏頃、義烈団のリーダーである金元鳳と会ってソウルの金翰への連絡を頼まれたのを契機に義烈団に加入し、上海で連絡、宣伝活動を行った。「筆が立ち、義烈団の名前で出した文の大部分は柳子明が書いたもの」（鄭華岩）との証言もある。翌二五年に広州で義烈団を解消し朝鮮民族革命党を結成する会議が

開かれるが、柳子明は義烈団のこうした路線変更に反対する立場でこの会議に参加したという。

一九三〇年、上海の朝鮮人無政府主義者たちは南華韓人青年連盟を組織した。柳子明はこの連盟に深く関わったはずであるが、『私の回憶』には「私は朝鮮革命運動の統一に関する文を書いて南華通訊に発表した」というくだり以外に、連盟とのかわりを示す部分はない。連盟の活動は、機関誌『南華通訊』によるアナキズムの宣伝と、親日分子や日本の施設などに対するテロ、破壊活動であった。こうしたアナキストとしての活動の全貌は、まだ明らかにできなかったとも推測される。

義烈団の後継組織である朝鮮民族革命党、朝鮮革命者連盟、朝鮮民族解放運動者同盟の三団体が統一して設立された朝鮮民族戦線連盟には、その設立の前段階から加わり統一に大きな役割を果たした。また朝鮮民族戦線連盟と臨時政府を統一しようとする動きのなかで、一九三九年に行われた統一交渉ではその代表ともなった。こうした努力は一九四四年になって、在中国の朝鮮民族運動各党派が臨時政府の領導のもとに統一を成し遂げることによって実を結ぶが、こうした活動を見ると、絶えず各運動団体の統一に腐心していた柳子明の姿が浮き彫りになってくる。

ひるがえって見れば義烈団の時代、「無政府主義者と義烈団を合作させよう」といっても努力して」（鄭華岩）いたという柳子明。彼のこうした運動戦線統一への努力は、もつと評価されてもよいのではないだろうか。そしてその統一思想の淵源は、アナキズムだったのだろうか、あるいは民族主義だったのだろうか。再度の検討を迫られる。

△日韓キリスト教史研究会・第43回V 1994年4月23日
兵庫の朝鮮人キリスト者 飛田 雄一

韓キ研の研究テーマのひとつとしてわれわれの地元・兵庫県における朝鮮人キリスト者の課題があるが、今回そのための作業のひとつとして「関連年表」を作成してみた。新聞記事、官憲資料の調査、聞き書き等、すべきことが沢山あるが、まずは、昨年12月に刊行された兵庫朝鮮関係研究会『在日朝鮮人90年の軌跡―続・兵庫と朝鮮人―』（神戸学生青年センター出版部刊）所収の「年表」より、キリスト教関係のものを抜き出さしていただいた。この年表は、堀内稔、高木伸夫両氏の労作で、すべて事項について出典も記されており利用価値が高い。関連する新聞記事については、堀内稔氏所蔵のものをコピーさせていただき参考資料として当日発表のレジメに付した。

今回の作業を通して感じたことは、予想以上に兵庫県下の朝鮮人キリスト者あるいはミッシヨンスクールが、県下の在日朝鮮人社会において大きな役割を果たしているということである。たとえば、一九二〇年代に入って初期の労働団体として労働済進会（会員数三百余名）が結成されるが、その中心人物のひとりには関西学院大学神学部の羅枢健である。その後、労働済進会の行事も当時神戸市内にあった同大学の運動場がよく使われている。また一九二四年以降には、神学生を中心とした三・一基督教青年会が音楽会を開いたり、植民地解放大演説会を開いたりして、神戸神学校（山本通）に「不逞鮮人」が入学した（『大阪毎日新聞兵庫版』21・4・14）というような記事もある。次のような教会設立の記事が、かなり早い時期にときどき掲載されており、いずれも興味深い記事である。今後それらの記事の裏付けをとっていく必要がある。

22・3・19 金三坤牧師ら神戸市野崎通りに神戸朝鮮耶穌教会創立。
28・9・9 神若通には朝鮮人の婦人牧師が教会設立。

三〇年代終わりのころからは、新聞記事がなくなり、代わりに『特高月報』などの官憲の資料への記述が増えてくる。武庫郡武庫村朝鮮基督教守部教会が「出征将兵士武運長久祈願会」を開催（38・5・22）というような記事が出てくる反面、神戸市灘区のカナダ長老教会宣教師は、宣教師L・L・ヤング方で宣教師会議を極秘裏に開催、将来朝鮮語使用禁止に對しての対策を講ずる（37・9・13）というような記述も出てくる。官憲特有のフレイムアップだと考えられるが、今後客観的な事実を調べる必要がある。

一九四一年に入ってからみられる次のような記述は、県下朝鮮人キリスト者の太平洋戦争下での厳しい状況を伝えている。

7・30 日本イエスキリスト教明石朝鮮教会（信者数約三〇名）は協和会の神棚奉祀に反対、幹部牧師神山火壇が本籍地に送還され教会は解散する。

8・12 有馬郡三田町の日本イエスキリスト教三田朝鮮教会（信者数約三〇名）は、幹部牧師神山大壇が協和会の神棚奉祀に反対したため本籍地に送還され、解散す。

12・26 神戸中央神学校民族グループ安啓澄、金希榮（42年8月17日および7月20日送局）檢舉さる。（以上、41年）

9・11 職工許炯、平山水龍、山本實洛の三名は基督教を利用し独立啓蒙（日本の国力弱体化を機に蜂起し一挙に独立企図）運動展開中に檢舉、許炯は一〇月三〇日送局。（以上、42年）

今後みなさんにご協力いただいて、このテーマに関して資料収集、関係者からの聞き取りをすすめていきたい。（本発表のレジメおよび新聞記事が必要な方は飛田までご連絡ください。）

新着図書御案内

- [illegible]

研究九△云御案内

合同研究会
一九九四年六月十九日（日）

△第一部▽

在日朝鮮人運動史研究会 第一三七回例会

時間 午後一時半—二時

報告者 崔孝先氏

テーマ 「金喜寿研究」

第二部

朝鮮民族運動史研究會 第一六七回例会

時間 午後二時半～5時半

報告者 藤永 壯氏

「上海における陸海軍慰安所と朝鮮人」

日韓キリスト教史研究会 第四五回例会

一九九四年六月廿二日 午後二時

報告者 信長正義氏

テーマ 「キリスト同信会と朝鮮伝道」

*場所はいづれも青丘文庫にて